

快適な暮らし、 エネルギーを 自給自足する家

ZEH ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

1970年代に2度も襲った石油ショックを機に、エネルギーの重要性を認識した日本は、省エネの時代に突入しました。世界の先頭を切って省エネを進めてくる中で経験した地球温暖化、東日本大震災で襲った電力危機。これによって、さらに、省エネの意識は国民に浸透していきます。そして今、注目されているのが新しい省エネのカタチ「ZEH」です。

経済環境省・環境エネルギー庁が2015年4月に完全施行した「改正次世代省エネ基準」によって、家づくりは大きく変化しています。2020年までに新築住宅にこの基準が義務化され、2030年にはZEHが過半数になり、将来的には標準となることを目指しています。そのため、ここ数年、家づくりの現場で耳にする機会が増えたというわけです。

1 新しい省エネの時代の到来

家づくりの 基礎知識

HOUSE MAKE BASICS

vol. _____ 2

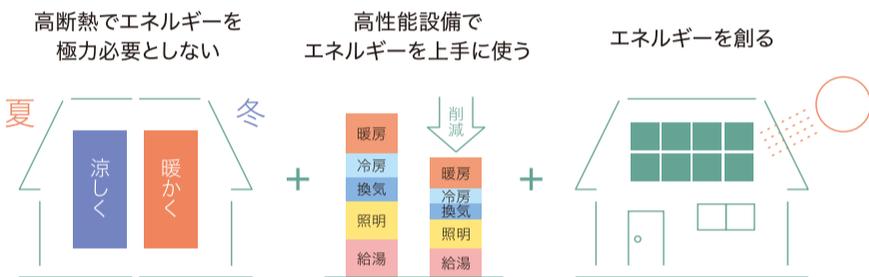
最近よく見聞きする「ZEH(ゼッチ)」。時代の変遷とともに私たちの意識にも根づいた「省エネルギー化」は、現代の、そして未来の住宅にとっても大切な要素です。今、注目されている「ZEH」をチェック！

2 さらに我慢！ ZEHが叶える、快適な暮らし

ZEH = ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

※Net Zero Energy Houseの略

$$\text{創エネルギー} \geq \text{消費エネルギー}$$



家に求められる省エネ性の高まりによって生まれたZEHは、いわゆる「エネルギーを自給自足する家」です。消費するだけの家から、省エネ・創エネ・蓄エネの家に進化することで、年間の一次エネルギーの収支がゼロになります。

さらに、新しい省エネのカタチ「ZEH」は、これまでの「省エネ我慢」というイメージを一掃し、環境や家計に優しいだけでなく、私たちに快適さも約束してくれます。高断熱性能によって、家中の温度差が少なくなること、結露やカビの発生、体への負担が軽減し健康で快適な暮らしが得られるといった、良いことづくしの家づくりなのです。

3 補助金の活用で上手に家づくりを

- 創エネルギー
太陽光発電システムや家庭用燃料電池(エネファーム)を活用し、エネルギーをつくる
- 省エネルギー
高断熱性能、高効率空調・LED照明・給湯を用いることでエネルギー量を抑える
- 蓄エネルギー
創エネした電力・割安な深夜電力を蓄電システムに溜めていく
- HEMS
創エネルギーを効率的に使うため、見える化するシステム

環境と家計に優しいと言っても、初期費用は一般住宅よりも高くなるのは避けられません。そこで活用したいのが補助金制度。ZEH支援事業(補助金制度)において、自社受注の住宅のうちZEHを50%にすると宣言したハウスメーカー・工務店・建築設計事務所リフォーム業者・建売住宅販売者等が登録している「ZEHビルダー」を通して申請することができるので、まずは相談してみましょう。

熊本の「ZEHビルダー」
386件
(令和2年8月28日現在)

●出典: 資源エネルギー庁ウェブサイト
https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/housing/index03.html

●図解は、「ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)」(資源エネルギー庁)(出典先URL)を加工して作成

